

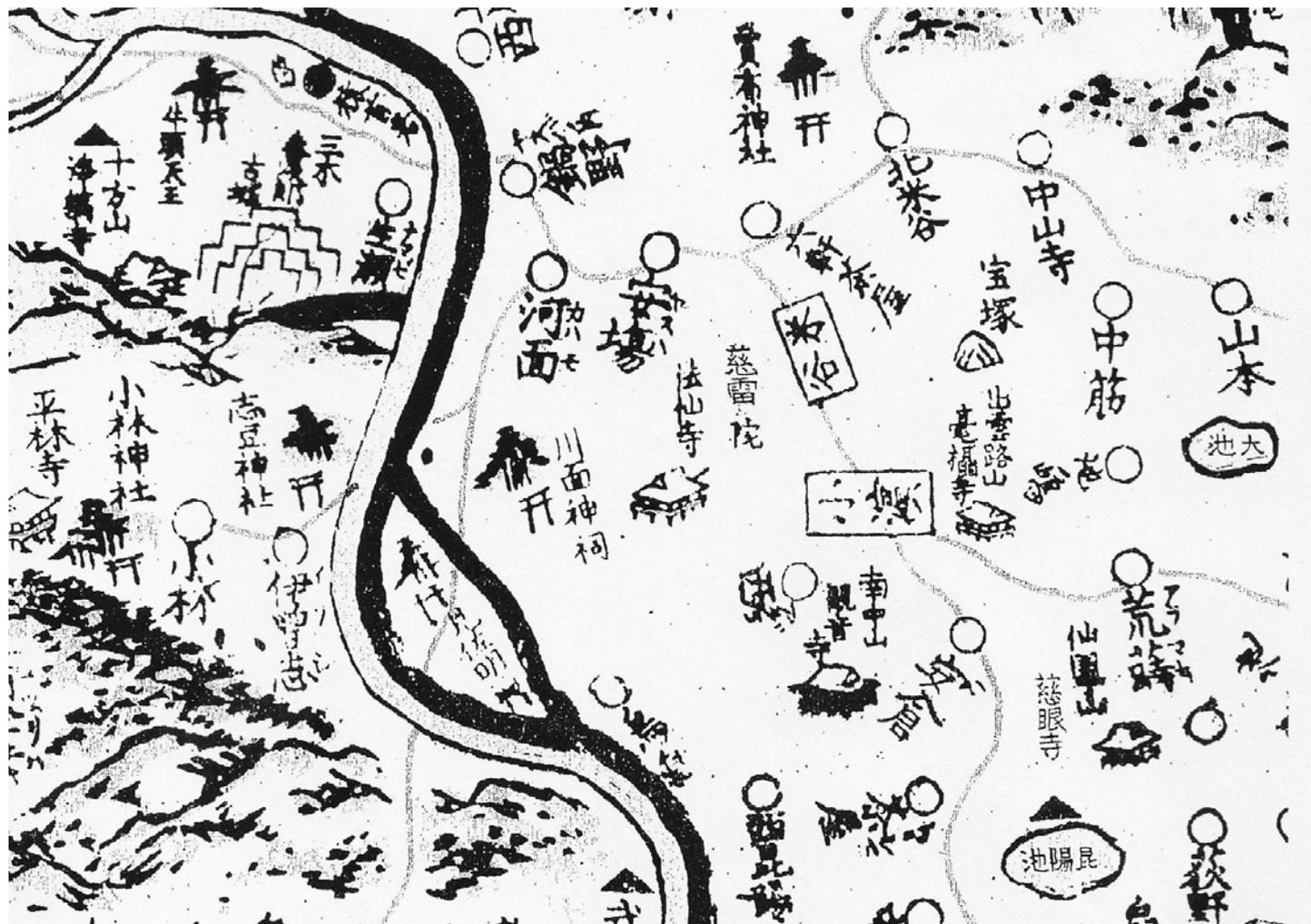
# アーカイブで見る 昔の宝塚と災害

---

～記事と写真で振り返る～

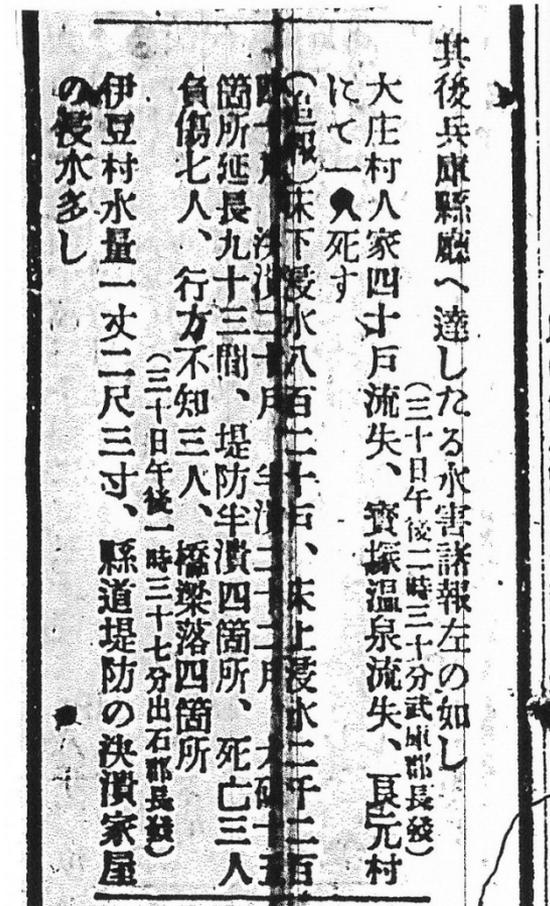
宝塚市総合防災課

# 天保7年（1836年）摂津国名所大絵図 宝塚の古い地図



明治30年(1897年)10月2日 大阪朝日記事

# 「宝塚温泉流失」良元村にて一人死す



明治39年(1906年)4月19日 大阪朝日神戸付録記事

## 「宝塚温泉火災」

●寶塚料亭の復舊 寶塚温泉場の料理店  
泉山外十一戸は此の程催したる同村凱旋祝  
賀會の煙火によりて燒失せしが其の後己に  
夫々復舊工事に着手したれば來る五六月頃  
には落成すべしと因に右罹災の總損失は五  
萬圓なりしも泉山は六千圓の火災保險を附  
し居たり

# 「列車衝突事故」

## ●箕面電車の衝突

箕面有馬電氣軌道株式會社寶塚停留場に於て十六日午前十一時上り一號電車と下り七號電車とが強く衝突し七號電車乗組の運轉手濱田正夫は頭部に重傷を負ひ兩電車とも運轉手臺を破壊し硝子窓其他に損害を及ぼしたるが乗客は兩車とも約四五十名を乗せ居たるも二三の微傷者を出したるに過ぎず而して破壊電車は一時間許りの後池田車庫に運び入れ修繕を施すこととしたるが約一週間許りにて修繕を終るべし衝突の原因は七號電車運轉手の過失にて一號電車が線路のポイントを通過し終らざる内に進行したる爲なりと尙一説に據れば下り電車は中山停留場附近より阪鶴線の汽車と競走を初め互に負けず劣らず疾走したるためポイントマンの信號を認めながら惰力のため遂に衝突するに至り一方汽車も余力を以て寶塚驛のプラットホームを通過し踏切にて漸く停車したりといふ

# 明治43年(1910年)3月17日 大阪毎日記事

## 「列車衝突事故」電車と汽車の暴走、車体破壊、負傷者5名

### ●貨面電鐵の衝突

電車と汽車の衝突、車  
 体破壊、負傷者五名

昨十六日午前十一時五十分貨面有馬電鐵  
 寶塚停留所において上り第七號電車と下  
 り第一號電車と衝突して數名の負  
 傷者を出し、開業早々の大騒動を演  
 出せり是れより先き下り電車は運轉手菅  
 田正雄(三)車掌廣瀬久治(三)が乗込み七  
 十餘名の客を乗せて中山停留所を發車せ  
 じ時恰も十時四十五分大阪發新舞鶴行  
 列車が十一時四十五分中山驛を發したる  
 が中山より寶塚迄は貨電は高地、阪鶴は  
 低地を走り其線路は並行せる

を以て電車の運轉手等は其の下道走る  
 汽車を見て何に其汽車に敗けるものかと  
 速力を早め遂には全速力を出して矢の  
 如く駛走し停留すべき清荒神停留所を通  
 過し猶ほ一直線に風を切つ  
 て勾配漸く急なる阪路を勢まじく  
 ヲナリを打つて駛走し汽車は頻りに黒煙  
 を吐いて之れまた電車に敗けしと駛走し  
 たるが電車の乗客も最初は競走の面白さ  
 と物珍らしさに彼方の汽車を眼下に眺め  
 居たるも速力愈々急となりて動搖甚だし  
 く今にも線路外に脱出せんす有様になり  
 供は生きたる心地もせず悲鳴を揚  
 げて救を求むるものもありしが全  
 速力にて疾走せる電車は容易に速力を緩  
 めべくもあらず其内に電車は全線第

一の難所として知られたる寶塚停  
 留所附近の急阪にかゝり汽車は寶塚驛を  
 通過して漸く停車したるも一方電車は停  
 留すべき阪の中途に停らずして下り電車  
 と入違ひに發車すべき上り電車の待ち居  
 れる停留所に乗入らんとせしかば運轉手  
 も乗客も益くなり總立ちとなりてアンロ  
 にも停留せる上り電車と衝突し乗客は車

内に將茶倒れとなり悲鳴を揚げて救助を  
 求め中には無我夢中に電車の窓より

飛び降りたるもありて非常の混  
 雑を極め双方の車臺は破壊

されて滅茶々となり下り電車運轉手濱  
 田は面部頭部に打撲傷を負ひ人事不省と  
 なり上り電車の運轉手岩崎清次郎(三)も  
 足部に打撲傷を負ひたるが乗客大阪府下  
 豊能郡小曾根村大字小曾根山神仙吉(八)

は父と共に打倒れて負傷し同村上原虎一  
 郎(三)他一名は足部に擦過傷を負ひ何れ  
 も池田町進藤醫院に運び應急手当を施し  
 其他は幸ひ無事なるを得たるも乗客は會  
 社の無責任と運轉手の亂暴を罵り會社に  
 赴きて其不都合を詰責せしものもありき  
 同會社の運轉手は何れも新人にして會社

にては監督をも付せずそれを放任せるた  
 め斯る結果の出來せるものにして電車の  
 速力は命令書に規定されありて斯る亂暴  
 なる事は行はれざる筈なればその筋に於  
 て充分の取締ありたきものなり

M43.3.17.

「暴風雨による箕面沿線の被害」

● 箕面沿線の被害

十五日夜

半より十六日早朝までの暴風雨の爲箕面山官有  
林に於て圓り一丈以上の杉、檜の類は無数に折  
れ倒れ同公園内の天幕張り休憩所を始め杉皮葺及  
びバラツク鼠根の軽茶屋等は屋根を吹散され或  
は倒壊したるものあり併しながら山林被害の殊  
に激しかりしは箕面山根きの辨尾寺山にて此處に  
ては樹木の倒壊せるもの非常に多し又箕面停留  
所の新に竣工せし乗客下り場は午前二時頃レ  
ール上に倒潰したるを以て電車の運轉は一時  
東側のみとなし居たりしが午前七時復舊せり、石  
橋附近にては箕面電車池田變壓所よりの高壓電線

が風の爲に切断されたる爲箕面、寶塚間の電車運  
轉は一時中止したるも三區より送電するを待つて  
復舊せり寶塚にては武庫川増水の爲例の蓬萊橋  
は又々押流され西岸石垣も所々崩れたるも人家等  
には被害無し

明治44年(1911年)9月25日 大阪朝日記事

# 宝塚の火事

## ●寶塚の火事

▲即死一名重傷二名

二十四日午後二時半寶塚蓬萊橋の北詰(兵庫縣川邊郡川面村)榮町角西洋洗濯廠田中松之助方と其の隣なる荷物商川徳事支店とへ燃ゆ移りたりこの騒ぎに武庫郡側の寶塚消防組は素早く現場に駆けつけ川面、米谷等の消防組も来て消防に盡力せしが猛火は見る／＼間に前記の四軒を焼き拂ひ更に橋本屋の裏手なる納屋と翠月亭の隣なる魚籠に延焼し納屋を焼き拂ひ魚籠方を半焼して午後四時頃鐘火したり當日は日曜日と祭日とが重なりたる事とて賽面電車が満員々々にて運ばれ多敷の遊覽客は火事と聞きて現場に駆けつけたれば一入に混雑を極めたりまた附近なる菱富、相生樓、鈴木旅館その他の旅館料理屋も一時熾な火の手に狼狽し荷物を取片附くるなど上を下への騒ぎなりしが舊温泉、新温泉に入浴中の客は狼狽も亦一入にして警鐘を聞きつけ火事と知るや我先きにと浴槽を飛び出し中には裸體の儘表に駆け出でんとしたるものもありたりとぞこの火事につき川徳方の荷物を取出しに道入りし八百屋定吉の弟的場萬治郎(時)は荷物を擔ぎ表に出でたる時しも其の前なる猪名川水電の電線焼け断れて萬次郎の身に落ちかかりたれば漏電に打たれて即死し之を助けんとせし兄定吉(時)及び川面村大工通稱大忠の兩人も存中其の他に重傷を負ひて近隣に擔ぎ込まれ應急手当を受けたるが大忠は生命危しと云へり損害は未だ判然せざれど約一萬四千圓なりといふ

# 宝塚旧温泉正面(絵葉書)



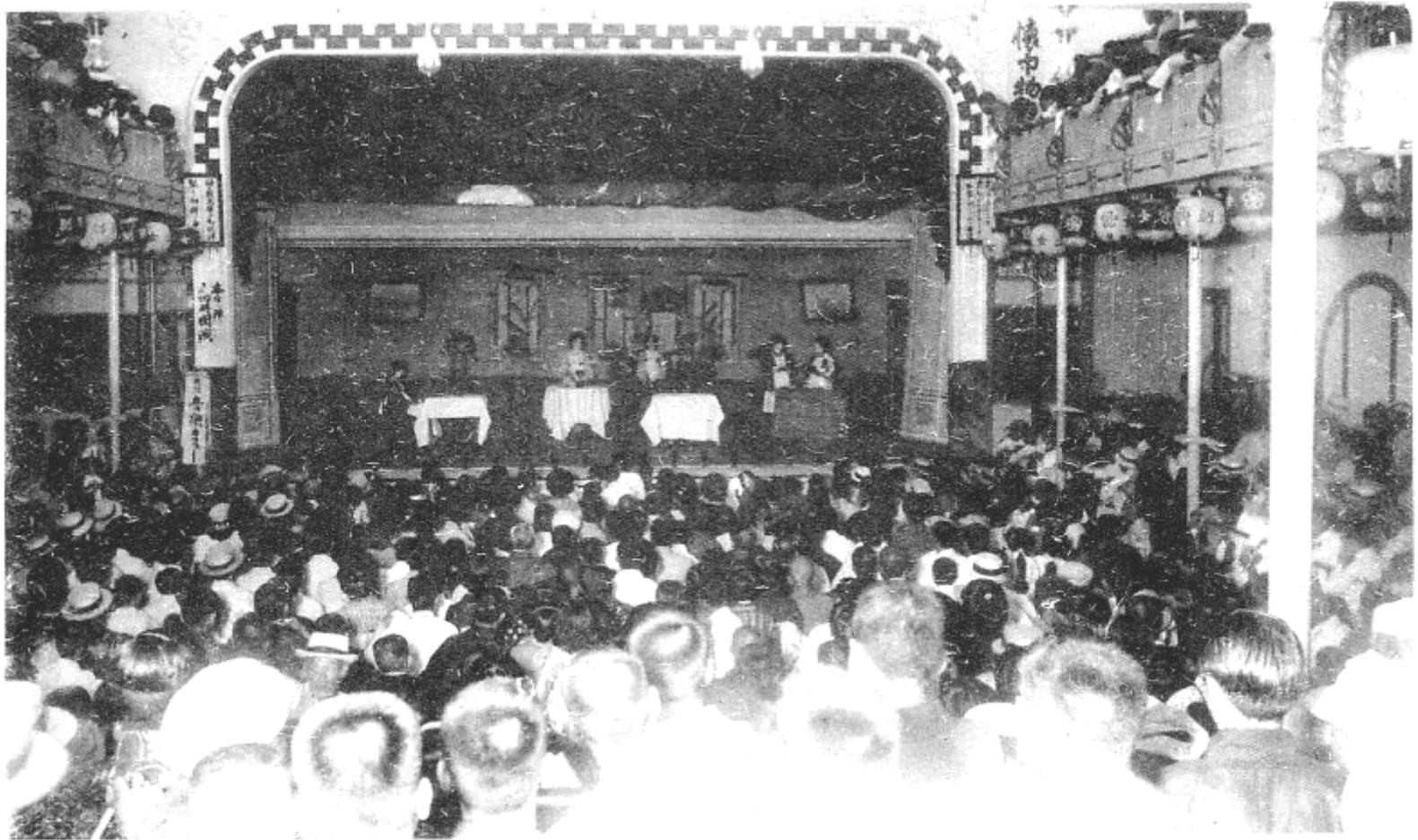
大正期の宝塚(温泉場の入り口)

# 箕有電鉄宝塚停留所(絵葉書)



阪急宝塚駅(提供者によれば大正3~10年)

# 宝塚新温泉 少女歌劇演芸場(絵葉書)



宝塚新温泉 少女歌劇演芸場

大正3年秋の作品。2階の客席も満席である。

大正10年(1921年)3月9日 大阪毎日記事

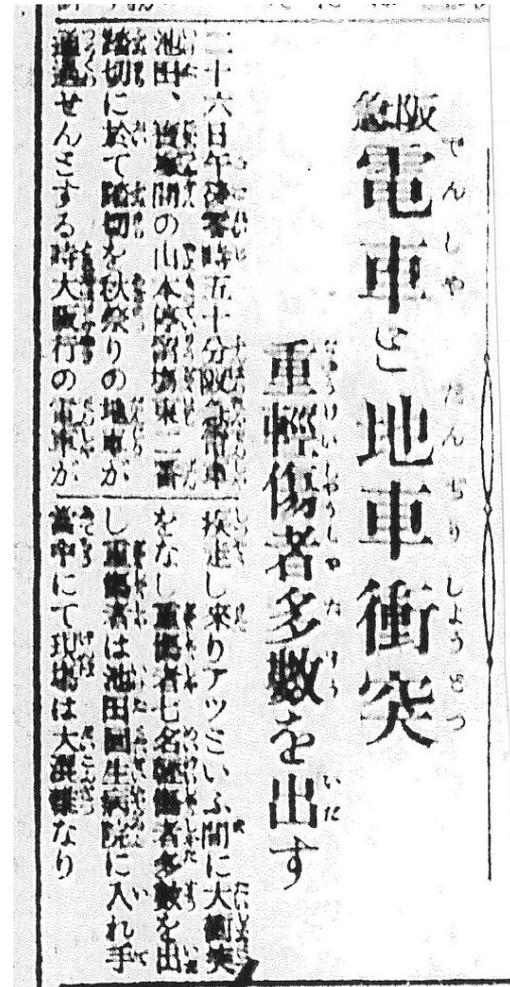
# 「宝塚-武田尾間のトンネル爆発事故」

寶塚武田尾間の隧道で  
**爆薬百個爆発す**  
損害甚し 工夫一名重傷

八日午後六時頃兵庫縣武庫郡良元村小林小川事務所内の工夫清原八右衛門が福知山線武田尾寶塚間隧道内で水道工事に従事中誤つて燐寸の燃残りを百箇程の爆薬中に取落したので一時に爆発し自分は幸無事たつたが傍に居た同所工夫安藤喜一(三才)は顔面及び左手全部を粉砕され寶塚病院に收容したが生命危篤尙隧道内の破損も甚しく損害莫大である

大正9年(1920年)10月27日 大阪朝日記事

# 「電車とだんじり衝突」





昭和10年(1935年)1月25日  
大劇場焼失



同年4月1日に復興して、公演が始まる





昭和10年(1935年)7月6日 大阪朝日夕刊

# 「豪雨で福知山線不通」

## 福知山線も

### 寶塚附近夕刻まで不通

五日午前五時半ごろ福知山線寶塚  
中山寺間の溜池が豪雨のため築堤  
崩潰し寶塚驛から約四百以南方一  
帯の線路が浸水、線路築堤三十以  
にわたり崩潰、福知山線は初發列  
車より不通となり午後六時復舊の  
見込、また同線生瀬、武田尾間も  
第二、第四兩トンネルがそれく  
約十坪ほどの土砂崩壊で初發列車  
から不通で折返し運轉で聯絡した  
がこの區間は午前九時十五分復舊  
した





# 昭和13年(1938年)7月 迎宝橋流失す



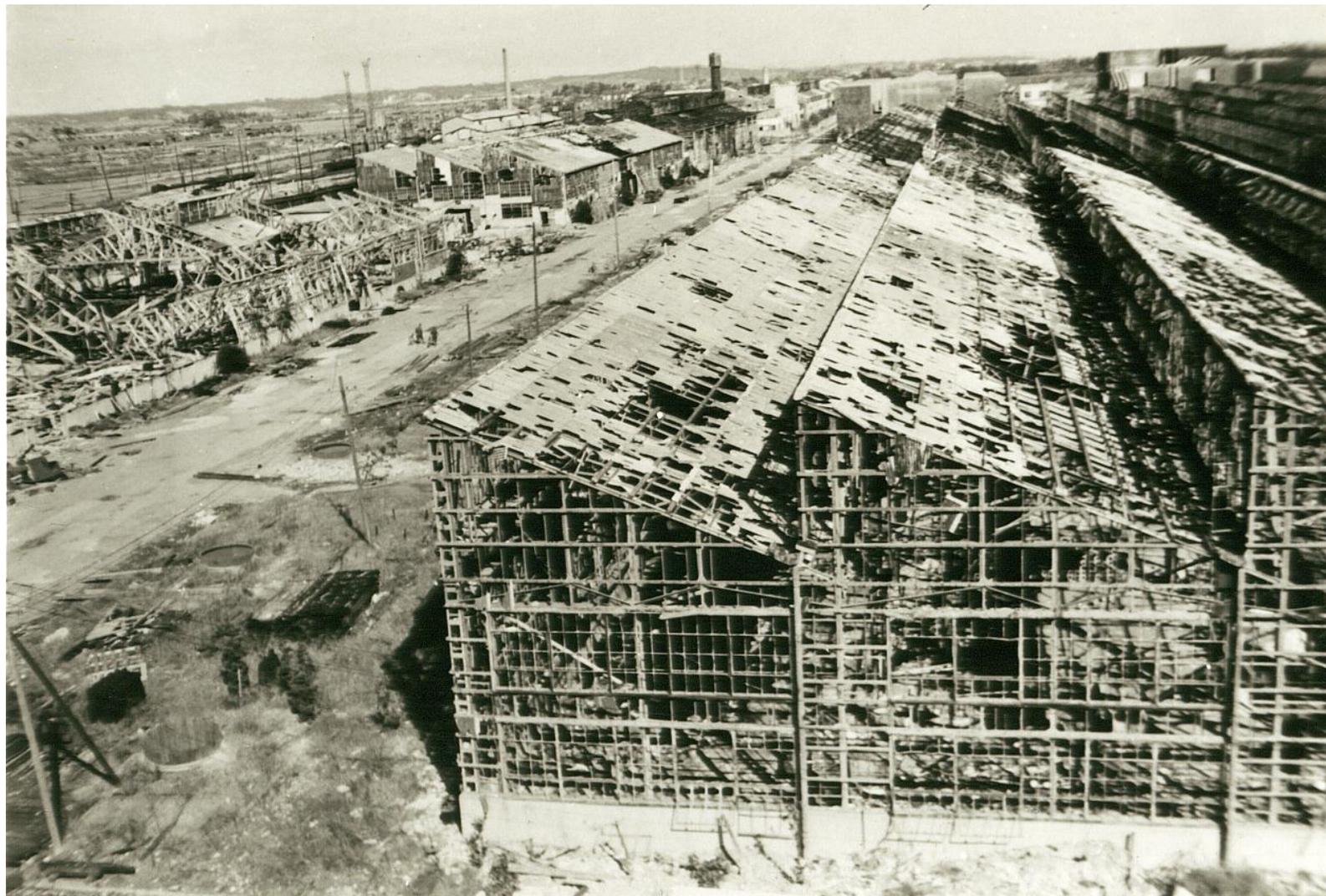
# 昭和13年(1938年)7月 迎宝橋の修繕



昭和20年(1945年)7月24日  
川西航空機宝塚工場爆撃



昭和20年(1945年)7月24日  
川西航空機宝塚工場爆撃



昭和20年(1945年)7月24日  
川西航空機宝塚工場爆撃





# 昭和23年(1948年)7月21日 弁天池の決壊



良元 4時30分～15時に279ミリ 最大時5～6時 85ミリ  
弁天池約10間決壊 阪急今津線築堤約10間高さ25尺とそれに  
接続する鉄橋の北橋脚崩壊、鹿塩民家9軒破壊流出、福井、高松、蔵人  
400余戸床上床下浸水。支多田川氾濫。支多田川の被害最大838万円  
(兵庫県災害史より)

# 昭和23年(1948年)7月21日 弁天池の決壊











# 昭和23年(1948年)7月23日大阪朝日記事

## 「宝塚の被害状況」

23日 金曜日

### 浸水二千余戸

#### 宝塚方面の被害

廿一日の宝塚の水害は良元、小浜、両村役場のその後の調査によると次の通り

【良元村】家屋流失一〇、全壊二一、半壊三五、床下浸水一、五〇五、床上二四五、田畑浸水七七町一段、流失埋没二六町歩、家庭菜園流失二十万坪、鉄道不通五ヶ所、堤防決壊二六、橋の流失一五、道路決壊八五、懸崖の通り

【伊丹市】家屋床上浸水九、床下三七九、田畑浸水一五〇町歩

【山西町】家屋浸水二七〇、田畑浸水一〇町歩、橋流失一

#### 尼崎の被害

尼崎市の農地の被害は武庫、立花、小田にわたり、水田の流失埋没二十町歩、冠水七十町歩、野菜畑は冠水三十三町歩、芋畑の流失二十町歩、冠水百五十町歩

伊丹方面 伊丹方面の被害は次の通り

【伊丹市】家屋床上浸水九、床下三七九、田畑浸水一五〇町歩

【山西町】家屋浸水二七〇、田畑浸水一〇町歩、橋流失一

#### 徒歩で連絡

水害のため今津線不通箇所 一部不通となつた京阪神急行今津線は、二十一日から被害現場付近に仮設ホームを急造、宝塚、今津からいずれも折返し運轉で仮設ホーム間約二百五十坪は徒歩連絡しているが、約一週間後には徒歩区間の單線運轉が出来、全線復旧は約三ヶ月かかる見込み







昭和23年(1948年)7月24日 大阪毎日記事

## 川底をしゅんせつ

豪雨禍の良元村起つ

豪雨禍により甚大な損害を受けた良元村では二十二日午後三時から緊急村会を開き、村議全員が復興委員となり、復興に邁進するとともに雨季を整えて再び災害をくり返さぬため、氾濫を予想される各河川の川底のしゅんせつなどを行うこととなつた



昭和42年(1967年)2月26日 大阪朝日

# 「セルロイド工場火災」

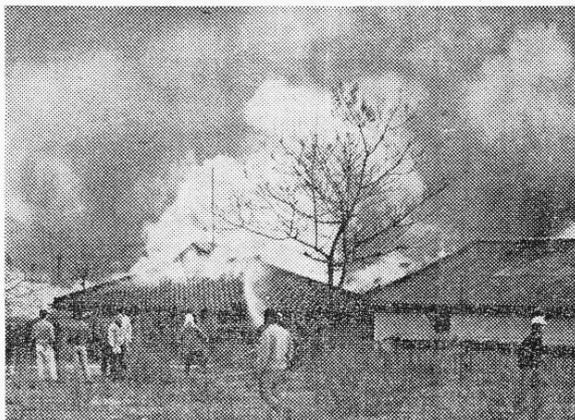
## セルロイド工場焼く

二十五日午後一時半ごろ、宝塚市川面字宮西、北セルロイド工業所(北勝一社長)の加工場付近から出火、木造平家建の同加工場約

四百平方メートルを全焼した。現場は国鉄福知山線のすまそばで、線路わきの雑草にも飛火したため、通り合わせた松江発大原行

急行「白兔」が現場近くで十五分立往生したほか、急行、普通各一

本が五、六分おくれた。宝塚署の調べでは、筆箱の型をとる鉄板が過熱して、そばにあつたセルロイドに燃え移ったらしい。



白煙をあげて燃えるセルロイド加工場(宝塚市川面で25日午後2時45分、川西市久代の松本武久さん写す)





# 昭和51年(1976年) 首地蔵火災写真



# 昭和25年(2013年)6月 現在の首地蔵



# 新旧 二つの首地蔵



平成2年(1990年)10月27日 大阪朝日記事

## 「不発弾処理」

### 不発弾見つかる

阪神競馬場内工事現場

二十六日午前九時半ごろ、宝塚市駒の町一丁目、阪神競馬場内工事現場で、シヨベルカーで穴を掘っていた建設作業員が、地下約五メートルのところに埋まっている不発弾（直径五十センチ、全長百四十センチ、重さ五百キログラム）を見つけ宝塚署に届けた。同署の調べによると、第二次世界大戦当時のものらしい。爆発した場合は半径三百メートルの地域に被害が予想され、撤去作業には付近住民の避難や交通規制が必要。三十日に日時を決めるといふ。

## 「不発弾処理」

ぶっそうな不発弾

☆☆☆

処理すませ「ホッ」

宝塚市駒の町一丁目、阪神競馬場内工事現場で約五ヶ下の地中から見つかった不発弾(重さ五百キ)の処理が、六日午後二時から行われ、陸上自衛隊第三師団(伊丹市)不発弾処理班が信管を抜いてクレーン車などで撤去した。

市、宝塚署などから約三百人が出て午前中から周辺約五百世帯に避難勧告をし、午後一時半から約一時間半周辺道路の交通規制をした。大きな混乱はなかった。